

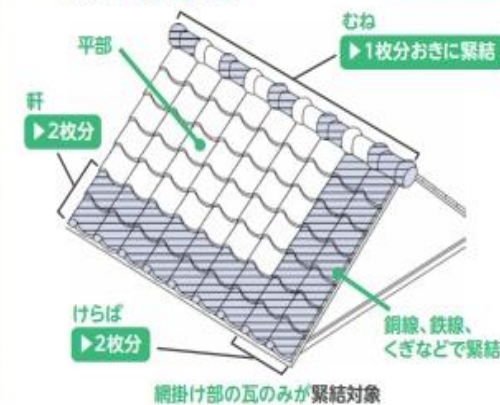
屋根瓦の耐風・耐震対策

〇令和4年1月から屋根瓦の基準がかわりました！

近年、台風や地震により屋根瓦が脱落する被害が発生していることを受けて、令和4年1月から、瓦の留付け方法に関する基準が強化されました。

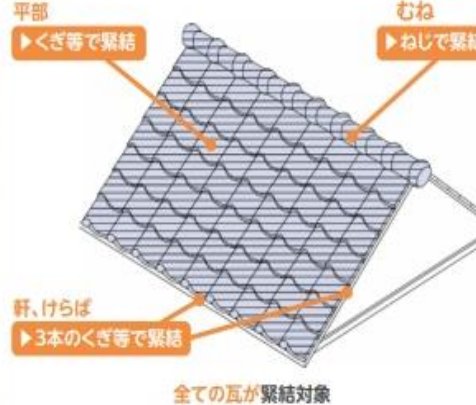
基準改正の内容

これまで
軒、けらば：端部から2枚までの瓦
むね：1枚おきの瓦



このような留付けの瓦屋根に
台風や地震で多くの被害が発生

令和4年
1月1日～
軒、けらば、むね、平部：全ての瓦

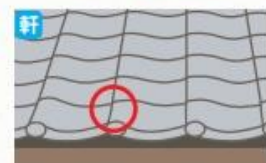


令和4年1月から、新築時には
上記の工法による留付けを義務化

屋根瓦の安全性のチェックポイント

ご自身の住宅の屋根瓦が地震や台風の発生時に安全かどうか、まずは地上からの目視や図面で点検してみましょう。
以下のいずれかひとつでも該当する場合は、専門家にご相談ください。

- ☐ 2001年より前に建てられた瓦屋根の建築物で、2001年以降に屋根が改修されていない。
- ☐ 瓦にズレや浮き上がりが生じている
- ☐ 瓦が著しく破損している
- ☐ 瓦の各部位の緊結方法が下図のような場合



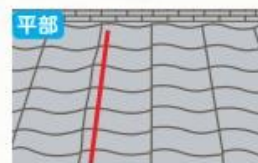
瓦にビス・銅線等による緊結がない



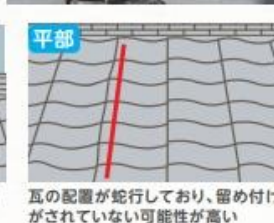
瓦にビス・銅線等による緊結がない



瓦にボルト・ビス等による緊結がない



瓦の配置が蛇行しており、留め付けがされていない可能性が高い



〇境港市では屋根瓦の耐風・耐震対策を進めています

平成28年の鳥取県中部地震では、屋根瓦が落下・飛散する被害が多数発生しました。鳥取県は、台風や地震などの災害による屋根瓦の被害を軽減するため、屋根瓦の耐風・耐震対策を推進しています。



【屋根の軽量化工事】

土葺き屋根から棧瓦葺き屋根への改修工事

土葺瓦



特 徴
・瓦と大量の土により重量が重い
・土の上に瓦を置く工法(釘等で留めない)
・経年により土の耐久度が低くなり瓦が落ちやすい

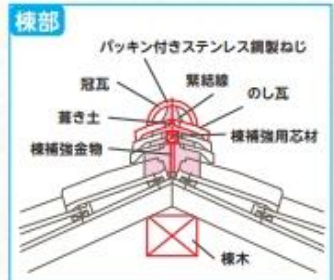
棧瓦



特 徴
・下地の上に敷いた木材へ、瓦のツメを引っかけて釘などで固定
・土葺瓦に比べて軽量、瓦が落ちにくい

ガイドライン工法による 瓦の全数緊結による補強が必要です

- ・平部はすべての瓦をくぎ等で緊結
- ・軒部やけらば部は尻部の2箇所を釘やねじで緊結。さらに棧山をねじ又は緊結線で留付け
- ・棟部は下地に緊結した補強金物に芯材を取り付けたうえで、冠瓦をねじで芯材に緊結等



〇屋根瓦の耐風・耐震対策に補助します

境港市では、屋根瓦の留付け方法を基準に適合させるための耐風改修工事や屋根を軽量化する耐震改修工事を行うものについて補助します。

耐風改修

基準に適合しない屋根瓦について、所要の耐風性能を有する屋根に葺き替える耐風対策工事

最大55.2万円補助
工事費の23%

耐震改修

屋根の軽量化等の耐震対策工事

最大30万円補助
工事費の1/3